

5. 東海（地域別調査機関：（株）UFJ総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
家計 動向 関連	良くなる	その他小売〔雑貨卸〕 （経営者）	・周囲の取引先の動きが活発になってきている。	
	やや良くなる	商店街（代表者）	・例年に比べて若い人の購買意欲が出てきており、土日の販売量も多くなっている。全体的に客単価は低いが、販売量は増えている。 ・中元期の手ごたえが昨年よりも良い。	
		一般小売店〔高級精肉〕（企画担当） 百貨店（企画担当）	・ボーナスの平均支給額がアップするなど世間でも明るい話題が増えており、来店客には以前のように買わずに見ているだけという状況はない。今後名古屋の都心部では商業施設の開発など消費者にとって明るい話題が多く、消費回復のきっかけになる。	
		スーパー（総務担当）	・食品全般でワンランク上の高品質又はこだわりある比較的高単価な商品が売れている。	
		スーパー（経営企画担当）	・既存店の前年比の売上が上向いている。	
		コンビニ（エリア担当）	・ファーストフードや新商品への仕掛けに対し、客の反応が良くなっている。	
		コンビニ（エリア担当）	・好天が続いており、今夏は飲料などを中心に売上が期待できる。また、良い物は買いたいという消費意欲がおう盛である。	
		コンビニ（店長）	・天候の長期予報では今年は暑くなると予測しており、飲料やアイスクリームの売上が増加する。	
		乗用車販売店（営業担当）	・新型車が出るため来客数、販売量とも増加する。	
		乗用車販売店（総務担当）	・夏のボーナスが前年を少し上回って支給されるようであり、客もそれを見越して少し余裕が出ている。	
		住関連専門店（営業担当）	・持家住宅は堅調に推移しており、民間大型物件も出てきている。ただし公共工事は引き続き減少する。	
		観光型ホテル（スタッフ）	・セルフサービスの食事提供による割安商品が主体であるが、予約は着実に増加している。	
		都市型ホテル（支配人）	・愛知万博を半年後に控え、人の動きは活発化する。	
		都市型ホテル（従業員）	・予約数が良くなっている。	
		観光名所（案内係）	・7、8月は暑い夏が来るため、去年と異なり夏の商品が売れると期待している。	
		設計事務所（経営者）	・住宅関係は低迷しているが、企業関係の計画は少しずつ発生している。	
		住宅販売会社（従業員）	・住宅ローン減税の駆け込み需要が最終段階となり、客の意思決定が速くなる。	
		その他住宅投資の動向を把握できる者〔室内装飾業〕（経営者）	・見積などの引き合いが増加している。	
		変わらない	商店街（代表者）	・時期的にオリンピックが終わるので刺激材料に乏しい。
			商店街（代表者）	・こここのところの来客数の悪い状況が続いていく。
			一般小売店〔結納品〕（経営者）	・都市部では景気が上向きでも、地方都市ではまだまだ今の状態がしばらく続く。
	一般小売店〔電気屋〕（経営者）		・季節的要因で良くなっている面があり、上昇傾向とはとても考えられない。雰囲気的には良いがさほどではない。	
	一般小売店〔酒〕（経営者）		・昨秋の酒類免許の規制緩和により競争は非常に厳しくなっている。一方、今年は暑い夏になりそうで売上が期待でき、これでようやく例年並みの横ばいを確保できる。	
	一般小売店〔和菓子〕（企画担当）		・個人消費はまだ不透明である。	
	百貨店（売場主任）		・以前はバーゲン前でも気に入った物なら購入する客がいたが、現在は値下げしてから購入するという客が増えており、購買意識に変化がみられる。	
	百貨店（売場主任）		・現在はクリアランス待ちで客は買い控えている。本当に厳しい売上である。2、3か月先は秋冬物商品の出始めの時期で、購買意欲は起こらない。	
	百貨店（企画担当）		・全般的に動きが悪く売れ筋商品の予測は難しいが、前年割れの状況が続く。	

百貨店（企画担当）	・現在、婦人服で秋冬ファッションの先取り展開をしているが、芳しい動きではない。この時期にトレンドの動きがはっきりしなければシーズンが始まって動きが鈍いことが多い、今年もそのような傾向になるのではと危惧している。
百貨店（経理担当）	・家庭用品、雑貨類や紳士服を中心に売上が戻っていない。
百貨店（販売促進担当）	・年金改革や選挙など将来に対する不安感が消費にブレーキをかけている。
スーパー（経営者）	・雇用や年金が不安定であり、消費者はお金があっても使ってくれない。大型店でも売上が維持できないため安売りをし、足の引っ張り合いである。金融不安もあり、小さい店舗からはまだまだ世の中が落ち着くようには見えない。
スーパー（店長）	・消費税の総額表示による割高感は依然として続いている。対策として割安感のある価格表示をするが、利益への圧迫が更に進んでしまう。
スーパー（店長）	・一部売行きが良い商品もあるが、活発になっていない部門もあり、全体では変わらない。
スーパー（店長）	・地元の漁業不振があり、また一方では大型店がオープンして雇用が増大するため、今後の変化の予測がつきにくい。
スーパー（店員）	・今後は特別な催事がない。来客数は前年をクリアしているが売上は減少しており、客単価も低下している。良くなる要素がない。
スーパー（店員）	・天候によって商品価格に変動がある。また、ここ2、3年続いている安い物に飛びつく購買行動は変わっていない。競合店でも同じ動きである。
コンビニ（経営者）	・来客が増えており、商品も動くようになっている。しかし全体的には悪い状態で安定している。 ・粗利益率を10%以上に設定した商品の動きは悪く、5%位の商品は回転率が良い。店の利益を考えると本意だが、客の来店がなければ商売にならないため、しばらくこのような方針で経営していく。
コンビニ（エリア担当）	・5月までは若干ながら単価が上昇しているが6月以降は低下しており、この状況はしばらく続く。
コンビニ（店長）	・売れている商品群とパン、米飯や雑誌など売れない商品群との二極化があり、この先この傾向は続いていく。
コンビニ（売場担当）	・高付加価値のプレミアム商品が売上を押し上げている。販売量は変わらない。
衣料品専門店（企画担当）	・需要喚起となる要素やトレンドがない。一時のどん底は脱しているが、衣料支出は抑えたいという客の声が多い。
家電量販店（経営者）	・景気は依然として良くなる傾向にない。消費者の財布のひもは固く、消費は伸びていない。夏のボーナス額が増えれば変化する。
家電量販店（店員）	・例年6月は販売量の多い月であるが、テレビ、DVDなど黒物家電の動きは良いもののエアコンなど季節物の動きが悪い。ここ数ヶ月で傾向が大きく変わる兆候はない。
乗用車販売店（従業員）	・不祥事を起こした自動車メーカーの影響で、客の不信感が出てくる。
乗用車販売店（従業員）	・不祥事を起こした自動車メーカーのユーザーが他社に流れているが、当社では特別仕様車の販売が期待していたほどではないなど、良くない影響も出ている。他社でも同様の事件があれば全体的に買い控えムードが漂うことになり、今後も予断を許さない。
乗用車販売店（従業員）	・景気の良い人と悪い人の格差が開いている。格差は更に広がっていき、全体的に良くなることはない。
乗用車販売店（従業員）	・新型の小型車の発売から店頭で元気が出ており勢いがある。この流れを大切に、ボーナス需要期をうまく乗り切りたい。ただし既存車種の販売低迷が顕著に現れてきており、てこ入れ策の成否がこれからの流れを決めていく。
自動車備品販売店（経営者）	・物は欲しいが急いで買わず、じっくり考えて買う購買行動が定着しつつある。回復には時間を要する。
住関連専門店（店員）	・客単価は前年より低下しているが、来客数は多少上向いている。一方で台所用品などはセールをしても売上はあまり伸びないなど、ばらつきがある。
高級レストラン（スタッフ）	・日祝日の来客数は前年並みを維持しているが、平日客は相変わらず減少傾向が続き、底堅さがみられない。
一般レストラン（経営者）	・夏の主力商品といえばかき氷やアイスクリームだが、最近ではコンビニが様々な魅力的な新商品を打ち出しており、手軽で低価格なコンビニ商品に押されてしまう。

	一般レストラン（スタッフ）	・来客数はここ数か月伸びているが、この動きに変化はない。	
	スナック（経営者）	・客から景気の良い話はあまり聞かれない。7月のボーナスに期待しているが、ボーナスが出ないという会社もあり、6月以上に売上が上がることはない。店の周辺も人通りが少なく、閉店している店も数多くある。	
	スナック（経営者）	・客から景気が良くなってきたでしょうと言われるが、店の現状はそうではない。しかしそのような声が聞けるのは良いことである。	
	都市型ホテル（スタッフ）	・数か月先の予約状況は、連休以外はあまりよくない。	
	旅行代理店（経営者）	・社会保険料の値上げなどに不安を感じている人は多く、個人消費が増加する要素は少ない。	
	旅行代理店（従業員）	・地方都市には中小企業が多く、大企業のようなボーナスの支給は望めないため、客の動きや購買意欲は鈍っている。	
	旅行代理店（従業員）	・グループ旅行に勢いはあるものの、外的要因に弱いこの業界ではまだまだ先が読めない。	
	タクシー（経営者）	・低価格競争は継続していく。夏休み向け家族旅行も、割安な宿泊の希望がほとんどである。職場旅行も低価格の希望が続いている。まだまだ厳しく、景気の上向き感はない。	
	タクシー運転手	・ほとんどの人の個人収入が増えていない。	
	タクシー運転手	・タクシー利用客は増加する様子がなく、現在の底に近い状態でこのまま続く。	
	タクシー運転手	・1年以上前からほとんど同じ状態が続いており、今の状態が変わるとは考えられない。	
	タクシー運転手	・特に良くなっている状況にはなく、このまま横ばいの状態が続いていく。	
	テーマパーク（職員）	・来客数、入込時間、滞在時間や消費状況など客の動向に好景気感はなく、依然として楽観できない。	
	テーマパーク（総務担当）	・景気が良くなる様子が客にみられるが、来客数の増加は今のところ見込めない。	
	ゴルフ場（経営者）	・春先は明るい兆しが見えたが、ここにきてビジター来場者が減っている。3か月先までの予約状況は昨年を下回っており、予断を許さない。	
	パチンコ店（店長）	・お盆前には毎年恒例の機種入替えがあるものの、来客数の増加は一時的である。	
	住宅販売会社（経営者）	・客の年収が増加しないため購入意欲が上昇しない。皆リストラの危惧があるため購入には慎重である。	
	住宅販売会社（企画担当）	・ここ2、3か月は来客数、契約額ともに増加していないが、このままの状態が推移していく。	
やや悪くなる	スーパー（仕入担当）	・商品価格に対する客の目は日増しに厳しくなっており、安いチラシ商品を各スーパーで買い回る客の比率が高まっている。 ・特にチラシ商品など消費税の5%分をうまく価格転嫁できず、単価を下げざるを得ない状況が今後も続く。	
	スナック（経営者）	・お盆休みなどで休日が多くなる時期で、人出が少なくなり、売上は見込めない。	
	旅行代理店（経営者）	・ここ1、2か月の間、力強さがなくなってきている。	
	理美容室（経営者）	・来客数が減少している。	
	美容室（経営者）	・客の来店はあるが回数が少ない。平均して2か月に1度くらいである。	
	その他サービス〔パチンコ機器製造販売〕（エリア担当）	・パチンコ業界は7月1日の風適法の改正後は年末まで模様眺めに入る。	
	設計事務所（経営者）	・仕事量が減少している。	
	設計事務所（営業担当）	・仕事量はどんどん少なくなっている。	
	住宅販売会社（業務担当）	・公共事業の減少による影響が下請にも出てきている。今後もこの傾向が続く。	
悪くなる	商店街（代表者）	・量販店の荷動きが異常に鈍いため、零細な販売店では休業状態である。	
	一般レストラン（経営者）	・良くなる傾向が全くなく、本当に切実である。	
企業動向	良くなる	輸送用機械器具製造業（工務担当）	・受注予定量が生産能力の最高レベル近くにまで増えている。

関連	やや良くなる	食料品製造業（企画担当）	・消費税総額表示の影響でメーカー側は流通価格を引き下げる傾向にある。その一方で消費者による総額表示への認知も次第に浸透しており、販売量は回復につながっている。 ・原油価格高騰の影響による材料価格高騰も、3か月スパンで見れば大きな影響としては出ない。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・地方の市町村のインフラ整備が若干上向きで進められる。
		輸送用機械器具製造業（経理担当）	・新製品の売行きについて楽観視できる雰囲気である。設備投資も上向きである。
		輸送業（エリア担当）	・一時期と比べて、ダンピングなどの要求は減少している。
		その他サービス業〔ソフト開発〕（社員）	・営業担当者の報告や取引先の動きが良くなっている。
		その他非製造業〔ソフト開発〕（経営者）	・機材の価格上昇があり多少のぶれはあるが、大きな混乱には至らない。景気の上昇はこのまま続いていく。
変わらない	パルプ・紙・紙加工品製造業（総務担当） 印刷業（営業担当）	・受注量、販売量ともに前年同月比で2、3%程度上回っている。	
		・日本全体で景気は回復しているとマスコミなどを通して聞くが、身の回りではそのような様子はない。	
	電気機械器具製造業（経営者）	・大手からの新開発の引き合いは非常に多く出ている。しかし4月から鋼材値上げの再検討が行われているためか、受注増加までには至っていない。	
	電気機械器具製造業（経営者）	・国内では、監視カメラの市場が堅調でほぼ同レベルで推移する。他製品も年度末需要の反動から脱却して販売量は上がっていく。受注量は、現在大きな案件がないためほぼ横ばいである。全体的には上向きであるが、前年度比ではやや減で大きな変化はない。	
	電気機械器具製造業（従業員）	・国内縫製業界では、特殊機種はもとより一般汎用製品の受注も減少しているため、全体的に先行き不安で投資意欲も低い。	
	建設業（経営者）	・コストアップ要因は落ち着いているが、受注単価の低迷状況は今後も続く。	
	輸送業（従業員）	・輸送業界では消費関連の荷動きの伸びを期待するが、年金を始め将来に向けての不安材料があり、若い層を除き購買は控えめに推移する。また、燃料価格の高騰が運輸業界には頭痛の種である。	
	輸送業（エリア担当）	・例年に比べて貨物の動きが鈍く、不透明な状況である。	
	輸送業（エリア担当）	・例年中元の荷物量が増える時期であるが、今年はスタートが遅れている。	
	金融業（従業員）	・かなり良くなっている企業と、規模を縮小して非常に苦しい企業が半々の状況である。全体を見た場合はどちらとも言えない。	
	金融業（企画担当）	・住宅ローンの金融機関選んでも信用力より金利である。それに付随する火災保険の補償内容についても補償内容より保険料というように、中身よりも見た目の安さに走っている。個人の財布のひもが固いうちは、景気が良くなるとは言いがたい。	
	広告代理店（制作担当）	・企業側からの定期的な受注は目標どおりに近いが、突然のキャンセルや逆の新注文もあり、現状とあまり変わらない。	
	税理士	・上向きの企業の経営者でもこの先も景気が上向きになる確信がないため、ボーナスを増やすまでには至っていない。先行きが不透明なため支給額は前年並である。	
	公認会計士	・中小企業の淘汰は完了していない。地元都市銀行がメインバンクの中小企業の回復も期待できない。	
やや悪くなる	窯業・土石製品製造業（経営者）	・新規住宅着工件数は過去3か月平均で4.75%減少しており、食器、タイル、衛生陶器などの窯業界はその影響を受ける。	
		・仕事量が落ち込むうえに、原材料高騰などのコスト圧迫要因が顕在化してくる。	
	金属製品製造業（従業員）	・依然として不安定である。この先の受注が読めない。	
	一般機械器具製造業（経理担当）	・依然として不安定である。この先の受注が読めない。	
	電気機械器具製造業（従業員）	・6月決算の取引先が多く、駆け込み発注がある。7月以降はこの反動でやや減少する。	
	輸送用機械器具製造業（統括）	・主要取引先の再建策がどのように具体化し、それが当社の業況にどう出てくるかに注目している。当面我慢が続く。	
輸送用機械器具製造業（総務担当）	・受注量の見通しが暗い。		

		輸送業（エリア担当）	・顧客先では、ばらつきはあるが少し明るい話が出ている。しかし一方で、燃料価格が10%も値上げになっているのに運賃への転嫁ができず、輸送業界は厳しい状況にある。
		経営コンサルタント	・住宅地の価格もまだまだ下がっており、開発業者も新規に土地を取得して活発に動く様子はない。
	悪くなる	非鉄金属製品製造業 〔 鋳物 〕（経営企画担当）	・鉄関係の原材料の値上げは今後も続くと言われているが、販売価格に転嫁できない状況が続く。
雇用 関連	良くなる	人材派遣会社（社員）	・愛知万博、中部国際空港関連の人材派遣のオーダーが具体的に始めており、周辺企業からの需要拡大が見込まれる。
		求人情報誌製作会社 （企画担当）	・愛知万博、中部国際空港の求人が具体化しつつあり、求人意欲は高い。
		学校〔大学〕（就職担当）	・資本金1億円未満の企業でも全般的に求人意欲が高くなってきている。
	やや良くなる	求人情報誌製作会社 （編集者）	・取材先企業で話を聞く限りでは、大量ではないながらも採用意欲はある。来月から少なくとも1～2割回復してくる。
		新聞社〔求人広告〕 （担当者）	・正社員の募集はあまり好調でない状態が続く。製造業、建設関係、請負関係の求人はしばらく好調である。
		職業安定所（所長）	・来年4月の中高新卒者向けの求人説明会には、前年より47.3%増加の165社の参加がある。今年入社の採用数よりも多くの採用を予定していると各事業所から聞いている。
		職業安定所（職員）	・求人数は確かに増加しているものの、内容的にはパート、派遣や請負の求人募集が多い。この在職者が求職活動をしているケースも多く、転職希望として現れている。 ・求職者からみると年齢、職種、仕事内容などによりミスマッチも増加している。
		職業安定所（管理部門担当）	・雇用保険の被保険者数は2月から前年同月比で増加傾向にある。有効求人倍率も1倍以上で推移している。
		民間職業紹介機関（職員）	・企業の業績回復を背景に求人、求職者数の増加が顕著になっている。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・今後も派遣ニーズは堅調に推移するが、派遣社員の確保が難しく、人材供給が追いつかない。
アウトソーシング企業 （エリア担当）		・輸送用機器関連やIT関連の求人は依然としておう盛である。しかし、求職者の数や企業側の求めるスキルと合わず雇用のミスマッチが続いている。	
新聞社〔求人広告〕 （営業担当）		・新規の求人件数が増加していない。また、業種的に偏りがあり、全体的に求人が広がる気配に乏しい。	
職業安定所（職員）		・求人状況をみると、建設業関係は浜名湖花博開催中、近隣公共工事の抑制の影響があり厳しい状況が続いている。他の産業は月々増減はあるものの総じて安定傾向にある。 ・改正派遣法の3月施行に伴う製造業務の派遣解禁で、輸送用機械器具製造業を中心に派遣求人が増加傾向にある。 ・雇用形態は、正社員から請負、派遣へと労働力を移す企業が目立っている。景気回復の中で雇用環境は当面横ばい状態が続く。	
民間職業紹介機関（経営者）		・今まで低迷していた首都圏、関西地区の求人意欲が今後も徐々に高まっていくと考えられるため、東海地区での採用はますます難しくなる可能性がある。	
	やや悪くなる	-	-
	悪くなる	-	-